

入選

親切ってなんだろう？

北海道 栗沢小学校 五年

成田 幸太郎

「親切って、してもらいもの？それとも、してあげるもの？」

私は、親切について今まで深く考えたことはありませんでした。でも、ある一人の言葉で、少しその言葉で、その意味がわかったような気がしました。

私は、柔道を習っています。そこで友達になった「いっつ」とは、稽古以外でもゲームをしたり、プールに行ったり、お互いの家に泊まりあったりしています。

そして、どんな場面にも登場して、みんなのお世話をしてくれるのが「なみちゃん」です。なみちゃんというのは、いっつのお母さんで、明るくて楽しくて、時には厳しく、いつも大切なことを私に教えてくれる人です。

そんななみちゃんが、私に言ってくれた言葉があります。

あるとき、お母さんが忙しくて、行きたくてもなかなか稽古に参加できなかったときがありました。そのときなみちゃんは、学校が終わるとすぐに私を預かり、夕ご飯を食べさせて、稽古場まで連れて行ってくれました。

またある時ときは、試合で自分だけが負けて落ちこんでいたら、ただそばにいて、寄りそって肩をだいてくれました。なみちゃんはいつも、そんな風にして私に力を貸してくれます。

そんななみちゃんに、私は助けてもらったままで良いのだろうか、といつも考えていました。でも、恩返しする方法が見つかりません。

私は、なみちゃんに自分のそんな思いを素直に伝えました。そのとき、私に言ってくれたのが次の言葉です。

「なみが幸太郎にした親切を、今すぐに返すことができなくても、幸太郎に余裕ができたとき、誰かにしてあげること、なみに親切を返したことになるんだよ。」

この言葉を言われて、体の力がふっと抜けたような、でも、ピリッと電気が走ったような、真逆の二つの感覚を覚えました。どうやって恩返ししたら良いのかと、ずっと力んでいたぶん、なみちゃんの言葉で力が抜けたのと、そんな考え方もあるのか、という衝撃が同時に感じられたのです。

私はそれまで、親切はしてもらったらその相手に返すものだと考えていました。でも、なみちゃんに出会って、それだけではないんだと思いました。

私が誰かから受け取った親切は、また違う誰かへと繋がり、めぐりめぐって、私や友達、家族のみんな、遠くの町の会ったこともない人たち、もしかしたら海を越えた遥か遠い外国にいる人たち、もっともっとたくさんの人に届いているのかもしれない、と感じました。

親切とは、たくさんの人と人をつなげていくものだ、なみちゃんの言葉を通じて深く実感しました。なのでこれから、人に親切をするとき、してもらいときには、誰かにも必ず届くものだと感じながらすることを大切にしなければいけない、と思いました。